



第 27 号

平成 29 年 8 月
会長 岡本 諒

こども七夕祭り

短冊に願いを込めて 80 名

8 月 7 日（月）、この日は、子供たちにとって、待ちかねた七夕祭り。

この行事は、日本の伝統的な行事の意義を子供たちに理解してもらうと同時に行列（菓子お頂く）を通してマナーの指導を図ることを目的としています。

今年は、いつものプログラムに加え子供たちに七夕の意味を知って貰うために「紙芝居」が行われました。



やって下さったのは、青少年育成部の織田光穂さん（2 区 7 班）、題名は「短冊にお願いを書いて」。約 20 分間、子供たちは目を輝かせて聞き入っていました。

子供の参加は約 80 名で、各 13～14 名ずつ 6 班に分かれ、それぞれ保護者の方にリーダーになっていただきました。

「ローソク出せ」の練習や、注意事項、そしてお礼の言葉を忘れないこと。そんな打ち合わせを済ませ、5 時 30 分頃出発しました。約 1 時間、割り当てられた地区を回り、たくさんのお菓子をいただいて、大喜びで、戻って来ました。

最後は、花火。子供たちは線香花火など小さな花火を、大きな花火は、役員が点火、短い時間でしたが、夏休みのひと時を楽しみました。

今年も、「ローソク出せ」は、交通安全などから 2 区の地域のみとなりましたが、大変多くの皆様から、お菓子の提供などのご協力をいただき、誠にありがとうございました。

子供たちにとっては、成長した後も、きっといい思い出になるとともに、地域への愛着が一層根付いてくれるに違いありません。

新規会員のお知らせ 8 月 13 日 2 区 12 班に千葉重信さんが入会されましたので、お知らせいたします。これにより会員総世帯数は 322 世帯となりました。

夏休みラジオ体操で爽やかな朝を

7月26日（水）～8月12日（土）



小学校の夏休みに入るとお盆休みまでの間、北野第二公園では毎朝6時30分からラジオ体操の音楽が流れます。

当自治会では、この時期子供たちと共に健康で楽しく元気に過ごすことを目的に毎年実施しており、今年は例年より

り多い、子供50名に大人も加わり70名余りが参加しました。

実施期間中、雨天中止は2日間だけでしたが、皆勤賞は10名、参加者には参加賞が贈られました。

清々しい一日の始まり、今年参加されなかった方、来年には是非どうぞ!!

発電機と車椅子が寄贈される

この度、会員の方々から発電機と車椅子の寄贈がありましたので報告致します。

- ① **2区3班の岩本千輝子様**から平成29年7月21日に車椅子、8月1日に発電機（容量550W）の寄贈がありました。

車椅子は、北野第二公園の防災資材庫に保管しておりますので、利用希望の方は連絡を頂ければ使用できます。

また、発電機は持ち運びができる重量なので、自治会の行事での利用が期待されます。

なお、8月7日の「七夕祭り」8月14日の「納涼盆踊り大会」では、早速活用させていただきました。

- ② **2区10班の田中昇様**から平成29年7月23日に発電機（2,500W）の寄贈がありました。

容量が大きいので、災害時の本部設営など自治会の諸行事に大いに利用できるものと思われます。

今回、ご寄贈いただいた方々には、自治会として心から感謝申し上げますと共に頂いた発電機と車椅子については有効かつ大切に利用してまいりたいと思っております。

ありがとうございました。（連絡先：総務部長 柳沢恒紀まで）

納涼盆踊り大会 子供踊りに 600 余名

四町内（上北野、南北野、北野中央、北野新和）合同の盆踊り大会は8月14日（月）ホームック・スーパーデポ北野店の屋上駐車場にて行われました。

納涼盆踊りは、3年前から上記4町内会による現体制で行われることになり、今年は、新和町内会が幹事を担当しましたが、それ以前の実行委員会体制の時代を含めて27回目を迎え、すっかり地域の行事として定着してきました。



子供踊り 3～4重の輪ができるほどでした

運営役員は、午前中から準備に当たり、午後2時ころには準備完了。4時を過ぎるころから続々とお客さんが来場して、開始時刻の5時には用意したテーブルがほぼ満席となりました。

会場には、金魚すくい、射的、輪投げなどのゲームや、焼き鳥、たこ焼き、各種飲み物などの屋台もあり、どれも大繁盛。

大会は、当自治会女性部長の和佐田節子さん（2区5班）の名アナウンスにより進行され、子供盆踊りでは、今年も檣の上で、北野平小学校の10名の生徒たちが太鼓を叩いてくれました。《指導をしてくれているのは青少年育成部の下家恭子さん（2区2班）》



子供仮装踊り



仮装踊りの表彰式を待つ参加者

5時45分からは子供仮装踊りが行われ、昨年を大きく上回る32名が参加、それぞれ素晴らしい出来栄に、審査員は大変なやまれた様子でしたが、10人に入賞、残りには参加賞が贈られました。

また踊りに参加した子供たちには、うれしいおみやげが手渡されました。その数600個余り。

6時30分からは、大人踊りがあり、年に1度のイベントを楽しみました。

＝誰もが住みやすい地域を目指して＝

清田区介護予防センター北野・平岡
清幌園居宅介護支援事業所 管理者
渡邊 和人

前回の内容では、認知症の正しい理解について専門職の立場から考察しましたが、今回は、地域住民の目線から認知症の方との関わりを考えてみたいと思います。ただ、普段認知症の方との関わりが少なければ実際に出会っても、躊躇してしまい、なかなか声をかけられない事も予想されます。

では、何故対応に躊躇するのか・・・「病気の人だから専門的な知識や技術が必要?」、「会話が続くか心配」、「拒否されたらどうしよう」等々が考えられます。

認知症行動症状の1つに、外出し家に帰れず歩き続け、遠い場所で保護されたり、怪我をして危険な状態で発見されるケース等もあります。俗にいう「徘徊」という行動ですが、本人にとっては目的があり、その目的を遂行しようと行動しています。

しかし、そのような時は、周囲の状況認識や判断力が低下し危険な場面に遭遇する事もあります。

このような症状があっても安全に自宅に戻る為には、やはり地域住民の目が大事になります。認知症の方が外出し行方不明になった時、第1発見者の3割が地域住民というデータもあります。

ただ、先程も述べましたように、声を掛けることは勇気のいることで、例えば、「真冬なのに、靴を履かずに裸足で歩いている」、「同じ場所でずっとキョロキョロしている」このような場面だと、比較的声を掛けやすいかもしれませんが、実際には声を掛けて良いか迷う場面もあると思います。

そのような時は、どのように見守り、声をかけるのが良いのでしょうか？
北野地区ではこのような、実際の場面を想定した声掛けの模擬訓練を例年実施しています。

今回は北野中央自治会の一部を範囲として、平成29年10月7日（土）9：30～12：30で実施致します。

当日は、寸劇をみて認知症を学んだり、北野中央自治会範囲で声掛け訓練も予定しております。

「人」を気にかけて認知症の方にやさしい地域は、誰にでもやさしい地域であるとも言えます。日々の挨拶や気づかい、お節介、このような何気ない行為の連続が、「誰もが住みやすいやさしい地域」に繋がると信じています。

是非、この機会に学び、考え、一緒に住みやすい地域を目指しませんか。